

湯川だより



第24号 2015/12/25
発行：御代田町 町民課
【佐久市・北佐久郡環境施設組合】

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

佐久市・北佐久郡環境施設組合議会 第2回定例会が開会



▲副議長就任あいさつ（御代田町議会選出 笹沢武議員）

11月19日、佐久市役所8階大会議室において佐久市・北佐久郡環境施設組合議会の平成27年第2回定例会が開会されました。

本定例会では、御代田町議会の議会構成が9月14日から改選されたことを受けて、御代田町選出の古越弘議員、茂木勲議員に代わり、笹沢武議員、池田健一郎議員が組合議会議員として選出されました。また、組合議会の副議長に笹沢武議員が推薦され、組合議会の次期改選まで、副議長を引き続き、御代田町選出の議員が担うことになりました。

定例会は、佐久市・北佐久郡環境施設組合個人情報保護条例の一部改正に係る条例案、新クリーンセンター建設事業地に係る事件案、平成26年度組合会計歳入歳出に係る決算認定平成27年度組合会計補正予算を議案として上程し、原案通り可決となりました。



◆ 佐久市・北佐久郡環境施設組合議会 議員名簿（平成27年11月19日現在）

選出議会	氏名	役職	選出議会	氏名	役職
佐久市	市川 稔宣		軽井沢町	川島 さゆり	議会運営委員
佐久市	井出 節夫	議会運営委員	軽井沢町	佐藤 敏明	議会運営委員長
佐久市	江本 信彦		軽井沢町	柳澤 信介	
佐久市	大井 岳夫	議会運営副委員長	軽井沢町	横須賀 桃子	
佐久市	菊原 初男	議長	立科町	今井 清	議会運営委員
佐久市	高橋 良衛		立科町	森本 信明	監査委員
佐久市	竹花 美幸		御代田町	笹沢 武	副議長
佐久市	吉岡 徹	議会運営委員	御代田町	池田 健一郎	

（※選出議会別・五十音順・敬称略）

希少動物の環境保全措置を実施しました



▲クリイロベッコウの移殖作業の様子

「クリイロベッコウ」生息基盤移殖作業

10月27日、新クリーンセンター環境影響評価の環境保全措置として建設地内で確認された希少陸産貝類のクリイロベッコウについて工事による影響を低減するため、他の生育環境へ個体移殖を実施しました。個体移殖は、本種の移動能力が低いことから、現況調査時に確認された場所の表土と生息基盤を合わせて移殖する方法としました。

「ベニモンマダラ」食草クサフジ移植作業

新クリーンセンター環境影響評価の現況調査時において建設地内で確認されたクサフジ群落に希少昆虫類のベニモンマダラが多数確認されました。

11月24日、工事により本種の幼虫の食草であるクサフジ群落が消失してしまうことから、近隣の影響の無い場所を移植先として選定し、移植元のクサフジから採取した種を播種する環境保全措置を実施しました。来春には移植元から本種の個体を移動させ、合せて移植可能なクサフジについても移植する予定です。



▲移植先におけるクサフジ(種子)の播種

クリイロベッコウ

目名：マイマイ目

科名：ベッコウマイマイ科

環境省レッドリストにおいて情報不足(DD)に指定されている陸産貝類で、落葉広葉樹林等に生息していますが、繁殖時期や生息環境など詳しいことは解明されていません。



ベニモンマダラ

目名：チョウ目

科名：マダラガ科

長野県版レッドリストにおいて準絶滅危惧種 (NT) に指定されている蛾で、開けた向陽草原でマメ科のクサフジ、ツルフジバカマが生息している環境に生息しています。



希少植物の環境保全措置を実施しました

「ギンラン」移植作業

ギンラン(ラン科)は長野県版レッドリストにおいて準絶滅危惧種(NT)に指定されている希少植物で環境影響評価の現況調査時において建設地外で確認されたギンランについて、林縁保護の環境保全措置を予定していました。

今年になり、当初確認された場所の近くで新たに1個体が確認されたことから、11月24日、個体の移植による影響の回避を試みました。今後、周辺環境をギンランの生育に適した環境に整備する環境保全措置を継続的に実施していく予定です。

新クリーンセンター建設地で物件の移転・撤去作業が行われています

現在、新クリーンセンター建設地において物件の移転・撤去作業が行われていますので、ご理解ご協力をお願いします。また、工事に伴う建設発生土が見込まれており、受入地の募集が行われていますので、詳細は組合のホームページを確認してください。



御代田町観光キャラクター
みよたん

ちよつとそこまで♪

龍になった甲賀三郎、蛇に似た取っ手を持つ土器、そして親子道祖神…



▲龍を模して剪定された植木

10月22日、朝ご飯を食べながら、毎週木曜日に発行される情報紙を読んでいると、「佐久平の民話いろいろ」の特集記事が目に入りました。

特集記事の一番最初に掲載された『信濃の民話～龍になった甲賀三郎～』について、「龍になった甲賀三郎は悲恋の物語ですが、妻を慕って探し続けた三郎はとてもすてきだと思います。ぜひ地域の民話に触れ、お話の世界を旅してみてください」との町立図書館柳澤司書のコメントとともに民話の舞台として三郎が蛇体となり飛び出したと云われる「真楽寺大沼の池」が紹介されていて、ふと湯川近くにある龍を模して剪定した植木のことを思い出し、その庭を見に行きました。

また、日本民俗学の創始者柳田國男先生がその研究と著作を生み出した記念すべき建物を柳田家先祖の地、飯田市に移築した「柳田國男館」を訪ねた時のことも思い出しました。

展示室において、常夜燈に「柳田國男」と刻まれた銘の写真を見つけ、案内役の伊那谷民俗研究所のかたに伺うと、信州随筆で「柳田といふ家は今から270年ほど前に野州の東隅から殿様に随従して南信へ入って来た者の末である」とあり、「古くは柳田と書き、現在の栃木県烏山からお殿様と南信の飯田に移る際、東信の小諸や佐久に一部のかたが残ったのではないか」と話を聞くことが出来ました。

また、旧大書齋において年譜を見ていると、「明治40年9月6日～9日、信州旅行。北佐久郡御代田の宿で土地の話聞く。志賀村から上州にぬけ、藤岡一見玉一寄居を経て帰宅」とあり、その後、文学8巻10号に「物語と語り物～甲賀三郎の物語～」、北佐久郡志編纂会報第5号に「新郷土誌の目的と方法」が著され、柳田先生と御代田、佐久との関わりを実感します。

定本柳田國男集月報36号には「島崎藤村が柳田國男のことを破戒執筆の頃援助をもらった神津さんに手紙で紹介している」との記述があり、赤壁の家で藤村と交流があった旧北佐久郡志賀村(現佐久市志賀下宿)の神津猛氏のことが頭に浮かびました。

11月23日、栄町公民館で新そばを味わった後、浅間縄文ミュージアムの企画展「土器のデザイン～はじまりのうつわ～」を見学していると湯川の河岸段丘上にある面替小谷ヶ沢遺跡の縄文時代竪穴式住居跡から出土された蛇に似た取っ手を持つ珍しい注ぎ口のある土器が展示され、龍になった甲賀三郎、その物語を著した柳田先生、信濃考古学会を結成した神津猛氏など、様々な縁に思いを巡らせ、しばらくの間、その土器を見入ってしまいました。



▲蛇に似た取っ手を持つ土器



12月の小春日和、旧北佐久郡中地村(現佐久市中佐都上塚原)にある親子で手をつなぐ三体道祖神を見に行きました。柳田先生も道祖神について生石伝説で記述をしていますが、この三体道祖神、佐久地方では三つしかなく、一つは佐久穂町大日向地区にあり、もう一つは所在がわからなく、もしかしたら御代田町内にあるかもしれません。来年こそは、佐久地方にある、もう一つの親子道祖神に出逢うことができたらと思います。(む)

編集後記



10月に全面オープンした「信州みよた クラインガルテン大星の杜・面替」の交流施設に地元面替区のかたが制作した高さ1mを超える「龍の絵画」が寄贈されたこと聞き、早速見させていただきました。滝を昇り、水しぶきを上げながら、今まさに空を翔けめぐろうとする躍動感と臨場感は見応えのある力作です。

また、この「龍の絵画」が交流施設に寄贈された日は、クラインガルテンの利用者のかたと面替区民のかたなど多くの方が集い、交流施設の屋根から手作りの「ごち餅」を投げたり、野沢菜の漬物、蕎麦打ちの体験など、交流イベントが開催されたそうです。

2015年も残すところ1週間となりましたが、今年は新クリーンセンターの地元合意に向けた協議に幾度となく足を運ばせていただいた年でした。2016年は交流施設に寄贈された「昇り龍」の如く、地域の皆様と新クリーンセンター整備事業が、1つの到達点へと昇り詰めることができるよう、共に歩みを進めてまいりたいと思います。

湯川だよりをご覧の皆様におかれましては1年間ご覧いただきありがとうございました。2016年が皆様にとっても「昇り龍」のような躍進の1年となることをお祈りいたします。

【発行】 御代田町役場 町民課 環境衛生係
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3111 (内線 47)
【組合問合せ先】 佐久市・北佐久郡環境施設組合 事務局
佐久市中込 3056 番地(佐久市役所内) 電話：0267-62-2916